

中宮中だより

No. 7

令和元年（2019年）9月30日
枚方市立中宮中学校
校長 鶴島 茂樹

＜充実の文化祭＞

オープニングは吹奏楽部



エンディングは2年生学年合唱



9月27日文化祭、充実した1日でした。開会式で、「一生懸命」が観る者を感動させるというお話をしましたが、まさにその通りの文化祭でした。1, 2年生の合唱も3年生の劇も、誰一人手抜きをすることなく、本当に一生懸命の声、演技だったと思います。そして、生徒会本部役員の行動力も光っていました。

合唱はどの学年、どのクラスも、大きな声が体育館一杯に響きました。そして、3年生の劇はどのクラスもテーマがはっきりと打ち出され、そのテーマに向けて、ぶれることなく本当にシリアスに演技していました。すばらしかったと思います。また、展示作品も充実していました。これまで築かれてきた、中宮中学校の良き伝統がしっかりと継承されていると感じました。これらの結果は、それまでの毎日の真剣な取り組みの積み重ねがあったからこそだと思います。いくつかのトラブルを乗り越えてきたクラスもあったことでしょう。

ただ、反省点もほんの少しあったようです。ここではあえて具体的に触れることはしませんが、気が付いている人は、そのことについて深く考えてみてください。

そして、最も大切なことは、行事の振り返りを「思い出」としてしままい込むのではなく、次の一歩につなげることです。それが出来てこそ、文化祭で得た団結力やお互いの信頼関係が本物だったと言えるのではないのでしょうか。



← 3-4 「みんな大きらい」

「みんな大きらい」と書かれた黒板。書いた本人は、教室にまだ姿を見せない。このことをきっかけに、軽い冗談では済まされない、人と人の繋がりについて、みんなが気付いていく・・・まさに身近な課題。

3-1 「ふるさと」→

古川里美・・・ふるさと。転入生の彼女が、力関係が支配し正しいことが通らなくなっているクラスに、「青春ドラマ」を創ろうと堂々と闘いを挑む。少しずつ目を覚ましていく級友たち。最後には、一番わがままだった千秋も心を開くとい感動的なシーンが待っていた。



← 3-3 「アリス～世界がアリスの夢だったら」

「眠り病」にかかって、夢の世界に行ったきり戻ってこない姉を捜して、不思議の国に入った主人公。そこはハートの女王の国だったが、その女王こそが捜していた姉。夢の世界に逃げ込んだ姉だったが、最後は二人で、現実の世界に戻る決意をする。



3-2 「魔術」→

「ネットいじめ」の恐ろしさを描く母親の脚本。主人公はいじめに苦しむ友人を救おうと魔術師に頼むが、今度は自分がいじめられる側に。実は、最初に書き込んだのは自分。そしてそれは、現実に主人公の身にも起こっていたのだった。



2-1 「全力少年」



1-1 「あすという日が」



2-2 「道」



1-2 「変わらないもの」



2-3 「雨のち晴レルヤ」



1-3 「マイバラード」



2-4 「奏」



1-4 「With You Smile」



< 充実の展示 >

- 美術部 いつものことながら、数々の賞を獲得している美術部の展示は見事なものでした。コンクール入賞作品（環境ポスター市長賞等）はさすがというできばえでしたし、有名作品の模写も、これ本当に中学生が描いたの？というくらい、すばらしいものでした。
- 茶華道部 「色とりどり」をテーマとした、華道の展示でした。まさにテーマ通りで教室全体が華やかになって、観る者の心まで明るくなるような展示でした
- 音楽科 例年通り、「音楽新聞」。多くは自分の好きな歌手、グループ、歌についての記事でしたが、なかには楽器の歴史や成り立ちを調べたものも多くあって興味深い展示になっていました。
- 美術科 みんなの自画像が展示されていました。影の部分等を、あえて黒ではなく様々な色を使っていて、楽しい作品ばかりでした。
- 家庭科 さすが3年生ともいうべき課題学習の展示でした。詳しく美しくまとめられていました。また、2年生の「1回分の食事」、本当においしそうでした。
- 社会科 「日本文化の紹介」をテーマとした調べ学習の展示でした。非常に深く掘り下げた作品ばかりで、勉強になりました。
- 理科 調べ学習の展示でした。今、世界中の若者が行動を起こして話題になっている「地球温暖化」の問題を扱ったものがいくつかあって、考えさせられました。
- 平和学習 みんなの宿題だった、「平和レポート」。原爆や沖縄戦を扱ったものが多くありました。
また、なかには実際に親戚のお年寄りから聞き取ったことをまとめた貴重なレポートもあって、大変勉強になりました。

